

し上げます。受賞しました「高度医療セクレタリーがもたらした外来診療への複合的効果－医師の業務負担軽減と経営的な貢献－」は、外来診療での医師事務作業補助者の

診療録記載により、患者待ち時間の短縮、診療録文字数の増加、小児科療養指導料算定件数の改善が確認されたことをまとめたものです。外来での診療支援は、診療の質の向上にも寄与できると考えており、医師の働き方改革が本格稼働した今、医師事務作業補助者の体制を考える一助になりましたら幸いです。論文としてまとめるにあたり助言頂いた上尾中央医科グループ協議会の久保田巧先生に、この場をお借りし感謝申し上げます。今後、医療において医師事務作業補助者がかけがえのない存在となり、医療の質向上のために貢献できるように努力してまいりたいと思います。

### 学会賞を受賞して

東京医療保健大学 松尾まき

この度は令和5年度日本医療マネジメント学会学会賞を賜り、大変光栄に存じます。本学会の宮崎久義理事長をはじめ、査読委員の先生方および長谷川 友紀編集

委員長、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。受賞論文「COVID-19専門病棟開設に伴う病棟編成下で取り組むアサーティブネストレーニングの実施と評価」は、コロナ禍における病棟編成で新たなチームメンバーとの人間関係構築のため、アサーティブネストレーニングという方法を用いてコミュニケーションスキルの獲得を目指しました。アサーティブネストレーニングは病棟の中堅看護師が中心となって行い、この過程を研究としてまとめました。緊急事態宣言時こそ、チーム力を最大限に発揮する必要がありコミュニケーションの重要性が問われたと考えます。本研究結果が、コロナ禍のような切迫した環境下でも、適切なコミュニケーションスキルを獲得する一助になりましたら幸いです。さらに臨床の皆様と一緒に研究を行い、その成果を論文という形で公表できたことが何よりうれしく思っています。



学会賞授賞式

## 支部学術集会開催報告

### 第20回高知県支部学術集会

学術集会会長：高知赤十字病院院長 谷田信行

2024年8月25日(日)に高知市文化プラザかるぼーとにおいて、第20回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会を開催いたしました。本年度のテーマは「地域で考える安全な医療継続 ～来る災害に備えて～」とし、地域医療の継続性と災害対策について議論を深めました。



会場風景

特別講師として、公立能登総合病院の脳神経外科部長である圓角文英先生をお招きし、「能登半島地震報告 絵にかいた餅は食えない より良いBCP作成のために」と題した講演を行っていただきました。圓角先生は、令和6年1月に発生した能登半島地震で被災しながらも、医療現場での活動を続けられた経験をもとに実践的なBCP(事業継続計画)の重要性についてお話しくださいました。

当日は322名を超える参加者が集まり、78の演題が発表されました。参加者からは「非常に有益な内容だった」「具体的な事例を交えた講演が印象的だった」との声が多く寄せられ、地域医療の安全性と継続性についての理解が深まりました。

開催にあたり、多大なるご支援とご協力をいただきました関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。今後も日本医療マネジメント学会高知県支部は地域医療の発展と安全性向上に寄与する活動を続けてまいります。

### 第20回鳥取支部学術集会

学術集会会長：鳥取医療生活協同組合鳥取生協病院院長 皆木真一

2024年9月7日(土)に、とりぎん文化会館(鳥取市)にて本学術集会を開催いたしました。『誰も取り残さない社会の実現へ～「多職種連携」と「地域包括ケア」～』を学術集会テーマに掲げ、特別講演には鳥取大学医学部地域医療学講座准教授 孫 大輔先生をお招きし、



会場風景